

東京メトロ三駅物語

京橋駅・日本橋駅・三越前駅の3駅は生まれ変わります。
電車を待ったり、改札を通ったり、ベンチに座るなどの何気ない駅の行為に着目しました。
その行為が付加価値を持つ事で、駅を利用するという行為がより良い経験になるような駅を提案します。

京橋駅



京橋のオフィス街で働く40代男性。京橋はオフィスビルが多く少しかたい雰囲気
の街並である。毎日、家と京橋の往復で気を引き締めメトロに乗り会社へと向かう。
そんな日常の中、新たな京橋駅へと降り立つと、柔らかな曲線を描いたルーバーと、
暖かい木の香りに包まれたホームが現れる。この柔らかな空間が毎日家族のために
働いているお父さんの心が休まるリフレッシュ出来る駅になります。駅が人々の癒
しの空間となり、いつも早歩きで通り抜ける駅も、少しゆっくり歩きながら「今日
も一日頑張ろう」という気持ちになるでしょう。

日本橋駅



初めて日本へ来た外国人観光客。「ニホンバシ」に行くと伝統的な橋の下に川が流
れていて美しい江戸の風景が楽しめるらしい！といて東京駅から日本橋へと向
かった。しかし高速道の下に橋はあるが、美しい風景はどこにも無い。少し残念に
思い銀座に向かうため日本橋駅へ行く。改札へ着くと美しいデザインをした壁と天
井が現れる。駅員にこのデザインについて聞くと日本古来の水の流れを表現したも
ので「カレサンスイ」と言い昔の日本橋の風景を表しているらしい。伝統的な表現
と現代のデザインの融合に感動し、メトロを利用して良い経験をしたと思っている。

三越前駅



月に1回デパートに買い物に来る御婦人。今日は孫とデパートで買い物する待ち
に待った日。久しぶりのデパートで買いたい物もたくさんある。電車を降りるとデ
パートに着いたようなホームとなっている。棚の中にデパートのおすすめの商品が
綺麗に陳列しており、なにやら孫もとても楽しそう。デパートで買物を終え駅へ
と向かう。棚と同じデザインで、お互いが向かい合い座る事の出来るベンチがあり、
今日の日を振り返る。「今日は楽しかったね。また来ようね。」なんて話しながら
婦人と孫の大切な一日の思い出を駅で刻んでいく。



駅が京橋における一番の憩いの場となる



伝統と現代のデザインが交差するホーム



デパートでの思い出を語り合う。デザインにもなる



曲線のルーバーが柔らかな空間を作り出す



同心円状に広がったルーバーの中心に照明とサイン計画がなされる

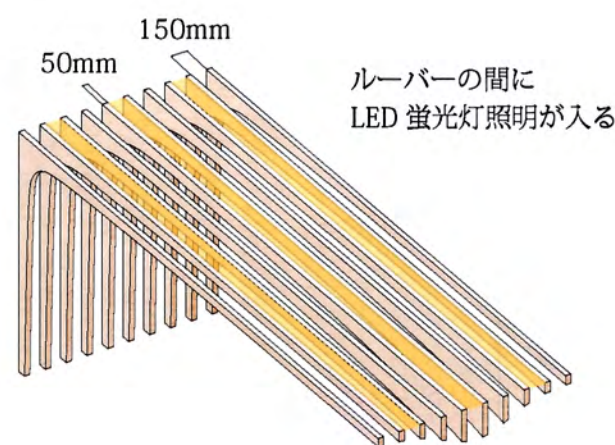


美術品のように陳列された商品を眺めながら改札を通る

concept

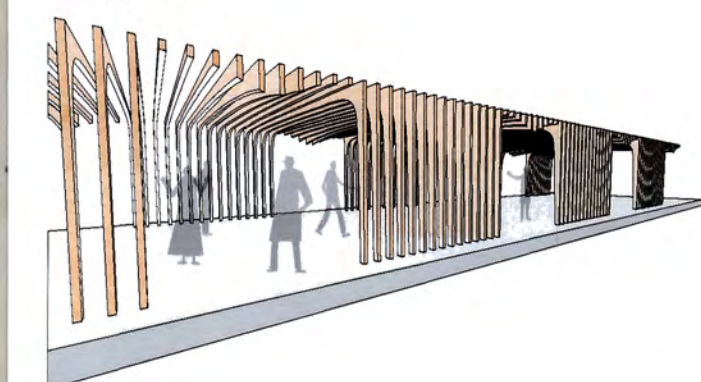


京橋はオフィス街でありサラ
リーマンが多く、公園のような
憩える場所は少ないと考える。
京橋駅がこの地域の憩いの場所
となるように駅を計画する。



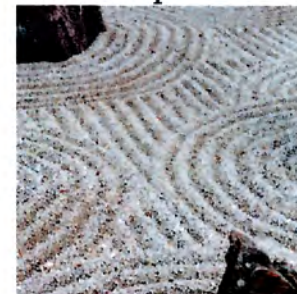
ルーバーの間に
LED 蛍光灯照明が入る

diagram

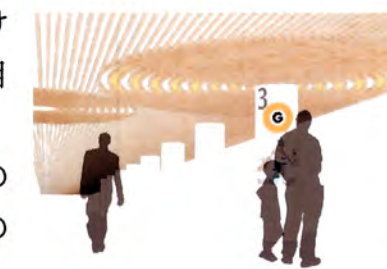


両側の乗り場のホームドアは交互に配置されるため、
電車を降りると柔らかなルーバーがお出迎え。

concept

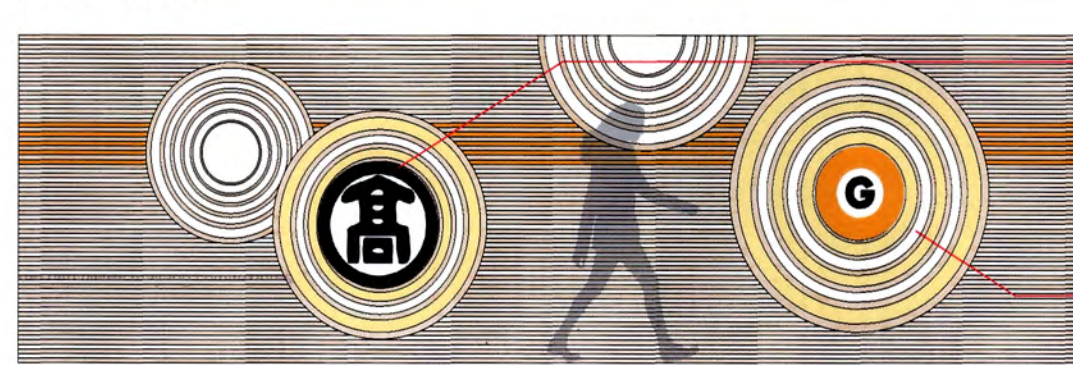


東京メトロは江戸時代におけ
る川のインフラとしての役目
を果たしている。
日本橋に流れていた川とその
風景を「枯山水」としてこの
駅に表現する。



同心円状に広がったルー
バーの中心にはサインなど
の駅の情報があり、木に寄
り添うように人々が集まる。

elevation

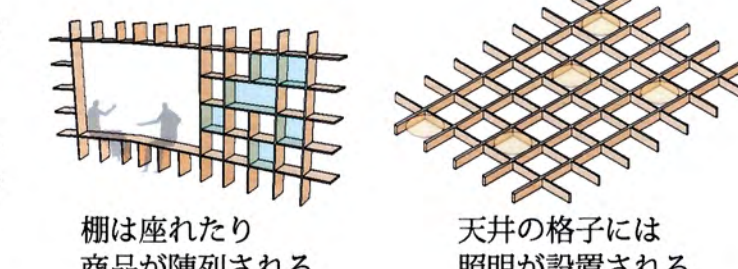


周辺施設のサインが
埋め込まれる
銀座線のカラーライン
ルーバーの間には
照明が設置される

concept



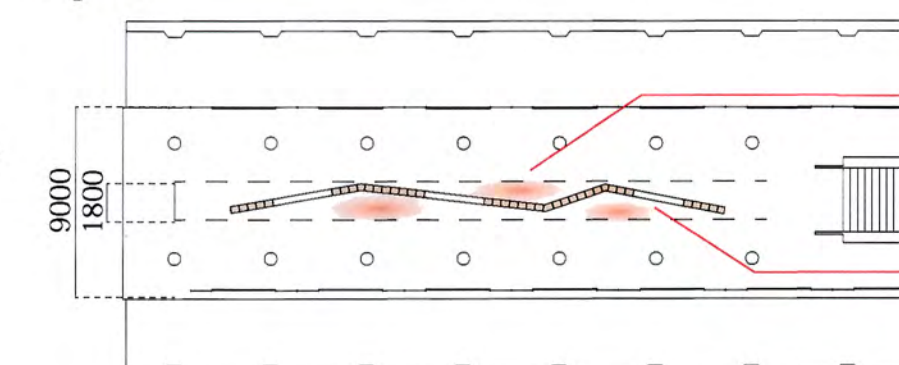
三越前駅は三越やコレドなど
直接地下で繋がっている。
それらの要素を改札・ホーム
まで引き込む事でショッピ
ングを楽しめる駅を提案する。



棚は座れたり
商品が陳列される

天井の格子には
照明が設置される

plan



蛇行している箇所がベンチとなっており
電車を待つ人々の居場所を作り出す。
開口が空いており
通り抜ける事が出来る。